

第141期 報 告 書

(平成18年 3 月 1 日から平成19年 2 月28日まで)



松 竹 株 式 会 社

株主の皆様へ

松竹株式会社

代表取締役社長 迫本 淳一



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社は第141期（平成18年3月1日から平成19年2月28日まで）の事業活動を終了いたしましたので、事業の概況をご報告申し上げます。

なお、当期の期末配当金につきましては、1株当たり3円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

事業の概況（連結）

当連結会計年度における我が国経済は、米国経済の減速およびIT関連の在庫調整、原油価格、金利水準の動向等不透明要因もありましたが、企業収益の改善に支えられ設備投資が増加し、また雇用情勢の回復がみられるなか、個人消費は全体として底堅く推移し、景気は緩やかに拡大しました。

映画界は、スクリーン数の増加傾向が緩くなかで、3,000スクリーンを超え、興行収入も2年ぶりに2,000億円台を回復し、邦画の占める割合が21年ぶりに洋画を上回る結果となりました。演劇界は、歌舞伎やミュージカルが会員組織やインターネット等を利用した観客を集め、安定した収益を上げましたが、その他の公演は、団体動員が厳しく、興行の格差が一段と顕著になりました。不動産業界は、景気拡大の持続により、全国主要都市のオフィスビル市場で需給改善が鮮明となりました。

このような状況のもと、当社グループは、より一層の経営の効率化を図るとともに、積極的な営業活動に努めてまいりました。以上の結果、当連結会計年度の売上高は、95,542百万円（前期比98.9%）となり、営業利益は、2,233百万円（前期比56.3%）、経常利益1,279百万円（前期比40.9%）となり、特別利益4,039百万円、特別損失2,812百万円を計上しました結果、当期純利益は、1,118百万円（前期比43.2%）となりました。

以下、事業別の概況をご報告申し上げます。

◆映像関連事業◆ 配給は、邦画25本、洋画10本を公開しました。洋画は、低調でしたが、「子ぎつねヘレン」「タイヨウのうた」等の邦画が健闘し、なかでも「武士の一分」が大ヒットとなり、高い評価を得ました。

興行は、「バイレツツ・オブ・カリビアン／デッドマンズ・チェスト」「デスノート the Last name」「ダ・ヴィンチ・コード」「ナルニア国物語／第1章：ライオンと魔女」および当社配給作品の「武士の一分」等期待以上の成績を上げた作品もありましたが、全体として前期を下回る結果となりました。興行網に関しては、当社直営映画館「パラダイススクエア」「新宿ピカデリー」「上野セントラル」の計10スクリーンを閉館しました。その一方、子会社である松竹マルチプレックスシアターズは、シネマコンプレックス「MOVIX亀有」「MOVIX昭島」「MOVIX堺」「MOVIX柏の葉」「MOVIX八尾」の5サイト計56スクリーンをオープンしました。

テレビ制作は、12作品13本を制作したなかで「信長の棺」が高い評価を得ました。また、「鬼平犯科帳」と「剣客商売」の両シリーズや「京都殺人案内」をはじめとする2時間ドラマシリーズも視聴者の高い支持を得ました。

映像ソフトは、「SAYURI」「子ぎつねヘレン」「サイレントヒル」、韓国テレビドラマシリーズの「チェ・ジウ 情熱」「ホジュン～宮廷医官への道～」等を提供しました。更に、「洋画まる得キャンペーン」や「邦画まる得キャンペーン」「『武士の一分』公開記念山田洋次監督セレクション」等の企画販売も行いました。

テレビ放映権販売は、「釣りバカ日誌」シリーズを中心に販売し、「男はつらいよ」のBS放送全作放映の後半の販売が収益に寄与しました。また、新たに映画のブロードバンド配信サイト「シネリエ」が昨年12月よりスタートしました。

CS放送事業は、子会社である株衛星劇場の「衛星劇場」チャンネルおよび「ホームドラマチャンネル」において韓国テレビドラマが一つのジャンルとして確立し、視聴者の支持を得ました。また、NHK大河ドラマ、同局朝の連続テレビ小説等の質の高い作品が好評を得て、新たな女性層の開拓に繋がり、新規加入者を獲得しました。

◆演劇事業◆ 歌舞伎座は、市川團十郎復帰が話題となった「團菊祭五月大歌舞伎」、泉鏡花作品を坂東玉三郎が監修・出演の「七月大歌舞伎」、初代中村吉右衛門生誕120年「秀山祭九月大歌舞伎」、豪華顔ぶれの「壽 初春大歌舞伎」が好成績を収めました。新橋演舞場は、尾上松緑・尾上菊之助・市川海老蔵の花形歌舞伎、市川染五郎・劇団☆新感線の「朧の森に棲む鬼」、中村勘三郎・藤山直美競演等の魅力ある顔合わせにより、収益に寄与しました。大阪松竹座は、坂田藤十郎襲名披露「七月大歌舞伎」、通し狂言・「染檜様恩愛御書」、坂田藤十郎・市川團十郎の東西大名跡初競演となった「壽 初春大歌舞伎」が好稼働しました。南座は、坂東玉三郎と鼓童がコラボレーションした「アマテラス」、十八代目中村勘三郎襲名披露「當る亥歳 吉例顔見世興行」が、それぞれ好評を博しました。

また、シアターコクーンの古典歌舞伎を新演出した「東海道四谷怪談」、浅草公会堂の「新春浅草歌舞伎」、日生劇場の「越路吹雪物語」、三越劇場の「華岡青洲の妻」、巡業公演では「第二十二回四国こんびら歌舞伎大芝居」、「十八代目中村勘三郎襲名披露公演」、「坂東玉三郎特別舞踊公演」、今期よりスタートした文化庁助成による「歌舞伎学校巡廻」、「六代目柳家小さん襲名披露落語会」等が収益に貢献しました。

海外公演では、ロンドン・アムステルダムにおいて市川海老蔵を中心とした訪欧歌舞伎公演が高い評価を得、英国演劇界で権威のあるローレンス・オリビエ賞にノミネートされました。

新規事業は、シネマ歌舞伎「坂東玉三郎-鷺娘-」の他に新たな試みとして、ニューヨークのメトロポリタン歌劇場(MET)の舞台をHD映像と6チャンネルの音響で配信する「METライブビューイング」を展開しました。

◆不動産・その他の事業◆ 不動産賃貸は、各ビルとも経費削減と効率化に努め、一方で空室率も改善され、なかでも東劇ビル、築地松竹ビル、有楽町センタービル、松竹ショッピングセンターは、安定的運営を行うことができました。

出版・商品販売では、「パイレーツ・オブ・カリビアン/デッドマンズ・チェスト」をはじめ、プログラム、キャラクター商品販売が好調でした。また、新規事業として女性専用リラクゼーション施設の「LOHASTIME大阪」(昨年6月)、「LOHASTIME鎌倉」(本年1月)がそれぞれオープンし、予想を上回る展開となりました。

また、子会社である松竹衣裳(株)は、演劇・舞踊・映画・テレビ業界の貸衣裳を中心として、堅調な成績を収めました。

各事業別の売上高は、次のとおりです。

事業別	売上高（前期比 %）
映像関連事業	53,094百万円（98.5%）
演劇事業	24,894百万円（95.6%）
不動産・その他の事業	17,553百万円（105.0%）

対処すべき課題

今後の我が国経済は、米国経済や金利水準の動向等留意する点ではありますが、企業収益の好調さの持続や雇用市場の回復等により、景気は、緩やかな安定成長が予想されます。このような状況のなかで、当社グループにとりましては、消費者の価値観の多様化や異業種からの参入の増加等厳しい経営環境が続くと思われます。

当社グループは、事業を通じた企業の社会的責任を果たすとともに、企業価値の最大化を実現するために事業強化、人材育成の促進、コンプライアンス、リスクマネジメントの徹底等、内部統制を積極的に推し進めてまいります。

映像関連事業は、4月の「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」、ゴールデンウィークの「ゲゲゲの鬼太郎」、夏の「怪談」、アニメ作品「ピアノの森」「河童のクゥと夏休み」、12月の「ミッドナイト イーグル」、来年1月の山田洋次監督作品「母べえ」等を配給します。興行は、「パイレーツ・オブ・カリビアン／ワールド・エンド」「ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団」の洋画をメインに強力なライン・アップを編成します。また、共同運営による「なんばパークスシネマ」等がオープンし、興行網の強化を図ります。テレビ制作は、15年ぶりの復活となる「必殺仕事人2007」や時代劇シリーズ「よろずや平四郎活人剣」等を制作します。映像ソフトは、邦画ヒット作品「武士の一分」を中心に多彩なソフトを提供します。株衛星劇場は、会社設立およびサービス放送開始15周年を迎え、記念プロジェクトとして韓国・台湾俳優を招聘したイベントや「男はつらいよ」関連の新たな紀行番組制作等を進めるとともにより良い番組づくりに傾注し、CS放送事業を強化していきます。

演劇事業は、二代目中村錦之助襲名披露興行、「N I N A G A W A 十二夜」の再演、中村勘三郎が復帰する「納涼歌舞伎」、藤山直美・沢田研二の顔合わせによる「桂 春団治」、中村勘三郎・森光子の特別公演、仲間由紀恵主演の「ナツひとり」、シアターコクーン「三人吉三」、更に第四回目となる浪花花形歌舞伎、レビュー「春の踊り」や大阪の夏の風物詩ともなった「七月大歌舞伎」、春の復活狂言「霧太郎天狗酒醜」、京都の掉尾を飾る「吉例顔見世興行」等お客様に喜んでいただける魅力ある舞台をつくります。

不動産・その他の事業は、新宿松竹会館の再開発として、平成20年夏完成予定で10スクリーンのシネコンを中心とした複合ビルを昨年12月に着工しました。京都撮影所施設ではリニューアル工事を本年6月より開始予定としております。既存ビルでは、建物施設の保全管理に注力し、快適な環境づくりに努めるとともに積極的に全国保有不動産の有効活用を図ります。また、「L O H A S T I M E」事業の拡充を視野に、同ブランドの商品化等を展開し、携帯モバイル事業でも通販サイト「M o v i e モバイルストア」の商品アイテムを増強するなど、ともに新たな企画も進めます。

その他、昨年10月に立上げた歌舞伎公式ウェブサイト「歌舞伎美人」は、好評を得、モバイルでの展開やオリジナル商品の開発・販売等を企画し、事業拡充を図ります。

何卒、今後とも株主の皆様の一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

庶務の概況

当社株主総会

平成18年5月25日(木)午前10時から東京都中央区築地四丁目1番1号東劇ビル内東劇において当社第140回定時株主総会を開催し、下記の事項を報告並びに決議しました。

- 報告事項**
1. 第140期(平成17年3月1日から平成18年2月28日まで)営業報告書、貸借対照表および損益計算書報告の件
本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。
 2. 第140期(平成17年3月1日から平成18年2月28日まで)連結貸借対照表および連結損益計算書並びに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記連結計算書類の内容およびその監査結果を報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案** 第140期利益処分案承認の件
本件は、原案のとおり承認可決されました。
(利益配当金は1株につき金3円)
- 第2号議案** 定款一部変更の件
本件は、原案のとおり承認可決されました。
- 第3号議案** 取締役6名選任の件
本件は、原案のとおり大谷信義、迫本淳一、野田助嗣、山本雅司、白井信彦の5氏が再選され、関 一郎氏が新たに選任され、それぞれ就任しました。
- 第4号議案** 監査役1名選任の件
本件は、原案のとおり中川勝弘氏が新たに選任され、就任しました。
なお、中川勝弘氏は、社外監査役であります。
- 第5号議案** 退任取締役および退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件
本件は、原案のとおり本総会終結の時をもって任期満了により退任される取締役大川武夫、安川好一、関 雅彦の3氏および本総会終結の時をもって辞任される取締役大沼信之、久松猛朗の両氏、監査役上坂凱勇氏に対し、在任中の労に報いるため退職慰労金を、それぞれ当社の定める一定の基準に従い相当額の範囲内で贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等は取締役については取締役会に、監査役については監査役の協議に一任することに承認可決されました。
- 第6号議案** 取締役および監査役の報酬額改定の件
本件は、原案のとおり会社法が施行され役員賞与が報酬等に含まれることが明示されたことから当社の取締役および監査役の報酬額を、「月額」表示から「年額」表示に変更し、取締役の報酬額を「年額4億8,000万円以内」、監査役の報酬額を「年額4,800万円以内」にそれぞれ改定することで承認可決されました。
- 第7号議案** 取締役および監査役にストックオプションとして新株予約権を発行する件
本件は、原案のとおり承認可決されました。
- 第8号議案** 従業員および当社子会社の取締役にストックオプションとして新株予約権を発行する件
本件は、原案のとおり承認可決されました。

当社取締役会

平成18年3月1日から平成19年2月28日まで取締役会を開催すること27回、重要事項につき協議しました。

当社登記事項

*第1回新株予約権行使による新株予約権の個数の変動は表-1、第2回新株予約権行使等による新株予約権の個数、発行済株式の総数、資本金の変動は表-2をそれぞれご参照下さい。

平成18年

- 5月1日 「当会社の株式については、株券を発行する」旨の登記を完了しました。取締役会設置会社、監査役設置会社、監査役会設置会社、および会計監査人設置会社の登記を完了しました。
- 5月11日 社外監査役（河村直治、上坂凱勇、柏木俊彦の3氏）、会計監査人（新創監査法人）の登記を完了しました。
- 6月8日 第140回定時株主総会に基づく取締役変更登記（大谷信義、野田助嗣、山本雅司、白井信彦、4氏の重任、関 一郎氏の新任、大川武夫、安川好一、関 雅彦、3氏の退任、大沼信之、久松猛朗、両氏の辞任）、監査役変更登記（上坂凱勇氏の辞任、中川勝弘氏の新任）、および会計監査人変更登記（新創監査法人の重任）を完了しました。
- 8月21日 「当会社は、株式に係る株券を発行する」旨の変更登記を完了しました。
第3-1回新株予約権の登記を完了しました。
新株予約権の数 193個（新株予約権1個につき普通株式1,000株）
第3-2回新株予約権の登記を完了しました。
新株予約権の数 307個（新株予約権1個につき普通株式1,000株）
- 12月11日 ㈱衛星劇場の株式交換に際し、普通株式4,911,300株の新株を発行したことによる発行済株式の総数の変更登記を完了しました。（平成18年12月1日変更）
- 12月25日 故取締役会長永山武臣の死亡退任登記を完了しました。（平成18年12月13日死亡）

平成19年

- 2月13日 第2回新株予約権の残22個を取得および消却登記を完了しました。

第1回新株予約権行使による新株予約権の個数の変動 表-1

登記日	新株予約権の数 (1個=普通株式1,000株)	変更日
平成18年 3月8日	477個	2月28日
4月7日	473個	3月31日
5月11日	470個	4月30日
7月13日	461個	6月30日
8月10日	419個	7月31日
9月12日	376個	8月31日
10月10日	373個	9月30日
11月9日	349個	10月31日
平成19年 1月12日	346個	12月31日

第2回新株予約権行使等による新株予約権および発行済株式の総数、資本金の変動 表-2

登記日	新株予約権の数 (1個=普通株式100,000株)	発行済株式総数	資本金	変更日
平成18年 3月8日	70個	115,984,278株	26,201,895,022円	2月28日
7月13日	58個	117,184,278株	26,689,095,022円	6月30日
8月10日	40個	118,984,278株	27,418,295,022円	7月31日
11月9日	39個	119,084,278株	27,458,895,022円	10月31日
12月11日	31個	119,884,278株	27,782,795,022円	11月30日
12月11日		* 124,795,578株		12月1日
平成19年 1月12日	26個	125,295,578株	27,981,295,022円	12月31日
2月13日	22個	125,695,578株	28,143,695,022円	1月31日

*㈱衛星劇場との株式交換により交付した新株式数の普通株式4,911,300株を増加した際の発行済株式の総数の変更登記です。

庶務事項

平成18年

- 3月3日 MOVIX亀有（㈱松竹マルチプレックスシアターズ）をオープンしました。
第29回日本アカデミー賞で「ミリオンダラー・ベイビー」が優秀外国作品賞、勝地 涼（「亡国のイージス」）、神木隆之介（「妖怪大戦争」）がともに新人俳優賞をそれぞれ受賞しました。
- 3月15日 MOVIX昭島（㈱松竹マルチプレックスシアターズ）をオープンしました。
- 3月22日 平成17年度芸術選奨で歌舞伎俳優尾上菊之助が文部科学大臣新人賞を受賞しました。
- 3月29日 第27回松尾芸能賞で歌舞伎俳優市川菊十郎が優秀賞、片岡愛之助が新人賞をそれぞれ受賞しました。
- 4月6日 ㈱ドーガ堂（東京都中央区）を設立しました。
- 4月15日 MOVIX堺（㈱松竹マルチプレックスシアターズ）をオープンしました。
- 4月29日 歌舞伎俳優片岡仁左衛門が春の紫綬褒章を受賞しました。
- 5月10日 第140回定時株主総会招集通知等を発送しました。
- 5月25日 第140回定時株主総会を東劇ビル内東劇において開催しました。
第140期報告書、株主総会決議通知書を株主に発送しました。
- 5月30日 第140期有価証券報告書を関東財務局に提出しました。
- 5月31日 歌舞伎俳優市川海老蔵一行がロンドンで松竹大歌舞伎訪欧歌舞伎公演を行いました。（～6月11日）
- 6月15日 歌舞伎俳優市川海老蔵一行がアムステルダムで松竹大歌舞伎訪欧歌舞伎公演を行いました。（～18日）
㈱松竹シネブラッツを解散しました。
- 6月20日 LOHAS TIME大阪がオープンしました。
- 6月26日 第62回日本芸術院賞で歌舞伎俳優坂東三津五郎が受賞しました。
- 7月17日 松竹芸能㈱代表取締役会長勝 忠男が死去しました。
- 8月14日 新派俳優の青山哲也が死去しました。
- 8月22日 第3回ユネスコ「人類の口承及び無形遺産の傑作宣言」として「歌舞伎（伝統的な演技演出様式によって上演される歌舞伎）」が無形遺産の傑作として宣言を受けたことによる伝達式を歌舞伎座で行いました。
- 9月14日 当社演劇本部顧問大川武夫が死去しました。
- 11月6日 歌舞伎俳優中村芝翫が平成18年度文化功労者に選出されました。
- 11月15日 第141期中間報告書を株主に発送しました。
- 11月22日 MOVIX柏の葉（㈱松竹マルチプレックスシアターズ）をオープンしました。
- 11月29日 第141期半期報告書を関東財務局に提出しました。
- 12月1日 ㈱衛星劇場を株式交換により完全子会社としました。
- 12月4日 MOVIX八尾（㈱松竹マルチプレックスシアターズ）をオープンしました。

- 12月13日 当社取締役会長の永山武臣が死去しました。
- 12月15日 歌舞伎俳優片岡仁左衛門が日本芸術院新会員に選ばれました。
- 12月20日 (株)松竹エンタテインメント（東京都中央区）が(株)エスエージェンシーに商号変更しました。
- 12月25日 映画作品のインターネット配信サイト「シネリエ」がスタートしました。
- 12月26日 (株)松竹エンタテインメント（大阪府大阪市）を設立しました。
- 12月28日 故取締役会長永山武臣の社葬を築地本願寺にて執り行いました。
第19回日刊スポーツ映画大賞で大沢たかお（「地下鉄に乗って」）が助演男優賞、岡田准一（「花よりもなほ」）が石原裕次郎新人賞をそれぞれ受賞しました。
- 12月31日 (株)エスエージェンシーを解散しました。

平成19年

- 1月15日 故取締役会長永山武臣に従三位・旭日大綬章が追贈されました。
- 1月24日 L O H A S T I M E 鎌倉がオープンしました。
- 1月25日 第35回大谷竹次郎賞で岡本さとる（「浪華騒擾記」）が奨励賞を受賞しました。
- 1月26日 第48回毎日芸術賞で歌舞伎俳優中村吉右衛門が受賞しました。
- 1月31日 第6回朝日舞台芸術賞で歌舞伎俳優中村吉右衛門が舞台芸術賞、歌舞伎俳優市川亀治郎が寺山修司賞をそれぞれ受賞しました。
- 2月4日 第23回浅草芸能大賞で歌舞伎俳優市川亀治郎が奨励賞を受賞しました。
- 2月6日 第61回毎日映画コンクールで笹野高史（「武士の一分」）が男優助演賞、檀 れい（「武士の一分」）がスポニチグランプリ新人賞をそれぞれ受賞しました。
- 2月9日 代表取締役副会長大谷信義が代表取締役会長に昇格しました。
- 2月16日 第30回日本アカデミー賞で笹野高史（「武士の一分」）が最優秀助演男優賞、檀 れい（「武士の一分」）、Y U I（「タイヨウのうた」）がともに新人俳優賞、故取締役会長永山武臣が会長特別賞をそれぞれ受賞しました。
- 2月13日 第49回ブルーリボン賞で、香川照之（「出口のない海」）が助演男優賞、檀 れい（「武士の一分」）が新人賞をそれぞれ受賞しました。
- 2月28日 第14回読売演劇大賞で串田和美（「東海道四谷怪談」の北番・コクーン歌舞伎3・4月公演）が最優秀演出家賞、歌舞伎俳優中村吉右衛門、歌舞伎俳優尾上菊之助が優秀男優賞をそれぞれ受賞しました。

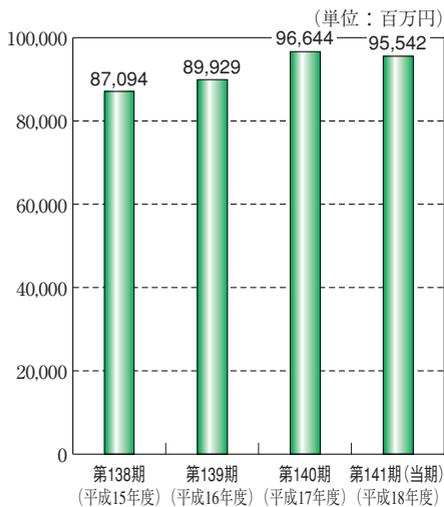
当社株式事項

本期間中における株式名義書換数は1,721件で、この株式数は14,796,168株であります。

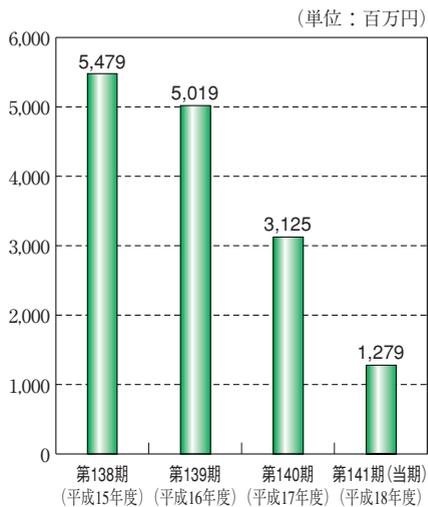
本期末現在株主数は19,153名で、前期末に比較し787名増加しました。

[業績の推移・連結]

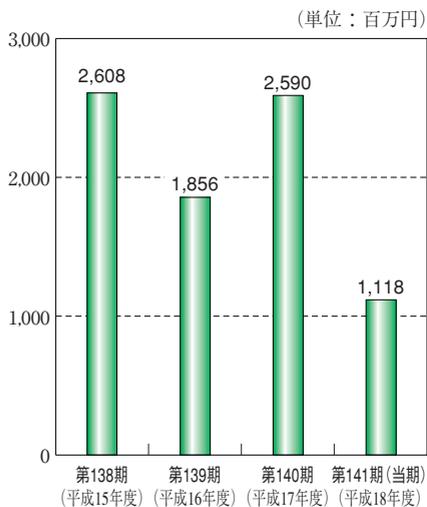
売上高



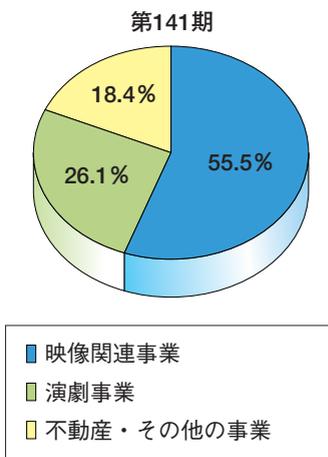
経常利益



当期純利益



事業別売上



連結貸借対照表

(平成19年2月28日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
流動資産	35,823,155	流動負債	30,579,471
現金及び預金	13,678,533	支払手形及び買掛金	6,946,639
現金及び預金 (責任財産限定対象)	575,514	短期借入金	5,690,400
信託預金(責任財産限定対象)	3,545,638	一年以内返済予定長期借入金	5,003,300
受取手形及び売掛金	8,059,623	一年以内返済予定長期借入金 (責任財産限定)	950,000
たな卸資産	4,370,142	一年以内償還予定社債	1,100,000
前払費用	2,287,410	未払金	6,571,743
繰延税金資産	659,613	未払費用	741,548
立替金	1,257,145	未払事業所税	85,498
未収消費税等	406,275	未払法人税等	377,514
その他	140,482	未払消費税等	213,054
貸倒引当金	889,128	賞与引当金	414,313
	△46,352	役員賞与引当金	19,850
固定資産	127,836,044	リース資産減損勘定	21,517
有形固定資産	90,726,419	その他	2,444,090
建物及び構築物	19,728,834	固定負債	67,845,174
信託建物(責任財産限定対象)	17,130,491	社 債	2,100,000
設備	16,410,664	長期借入金	26,477,129
機械装置及び運搬具	814,342	長期借入金(責任財産限定)	26,976,750
工具・器具・備品	1,566,641	繰延税金負債	4,406,618
土地	15,582,053	退職給付引当金	2,135,112
信託土地(責任財産限定対象)	18,751,834	役員退職慰労引当金	728,622
建設仮勘定	635,154	受入保証金	5,011,976
その他	106,402	リース資産減損勘定	8,965
無形固定資産	4,102,507	負債合計	98,424,646
借地権	1,283,969	純資産の部	
商標権	5,010	株主資本	57,605,334
ソフトウェア	635,295	資 本 金	28,143,695
連結調整勘定	2,097,925	資本剰余金	25,073,005
その他	80,307	利益剰余金	5,740,100
投資その他の資産	33,007,117	自己株式	△1,351,467
投資有価証券	21,125,248	評価・換算差額等	6,110,917
出資	20,370	その他有価証券評価差額金	6,110,917
長期貸付金	3,073,562	新株予約権	24,208
長期前払費用	927,634	少数株主持分	1,521,995
繰延税金資産	324,547	純資産合計	65,262,455
繰延税入保証金	5,319,082	負債・純資産合計	163,687,101
差その他	2,469,021		
貸倒引当金	△252,350		
繰延資産	27,901		
株式交付費	27,901		
資産合計	163,687,101		

連結損益計算書

(自 平成18年3月1日)
(至 平成19年2月28日)

(単位：千円)

科 目	金 額
売上	95,542,462
売上原価	53,821,108
売上総利益	41,721,354
販売費及び一般管理費	39,488,102
営業利益	2,233,252
営業外収益	865,719
受取利息及び配当金	345,538
持分法による投資利益	71,104
その他	449,076
営業外費用	1,819,247
支払利息	871,521
倒引当金の繰入	91,006
その他	856,719
経常利益	1,279,724
特別利益	4,039,702
固定資産売却益	3,050,025
貸倒引当金の戻入	409
投資有価証券売却益	868,543
関係会社持株の変動	100,023
その他	20,700
特別損失	2,812,304
固定資産売却損	27
固定資産除却損	115,063
固定資産解体費用	485,967
映像製作倒れ償却損	220,804
投資有価証券評価損	645,383
役員退職慰労金	61,884
過年度役員退職慰労引当金の繰入	91,665
繰上評価損	28,500
減価償却の損失	1,099,055
その他	63,952
税金等調整前当期純利益	2,507,122
法人税、住民税及び事業税	809,885
法人税等調整額	362,684
少数株主利益(控除)	215,754
当期純利益	1,118,797

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(自 平成18年3月1日)
(至 平成19年2月28日)

(単位：千円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,196,714
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,588,135
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,741,696
現金及び現金同等物に係る換算差額	4
現金及び現金同等物の増減額	△2,133,113
現金及び現金同等物の期首残高	15,470,485
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少	△156,535
現金及び現金同等物の期末残高	13,180,836

連結株主資本等変動計算書

(自 平成18年3月1日)
(至 平成19年2月28日)

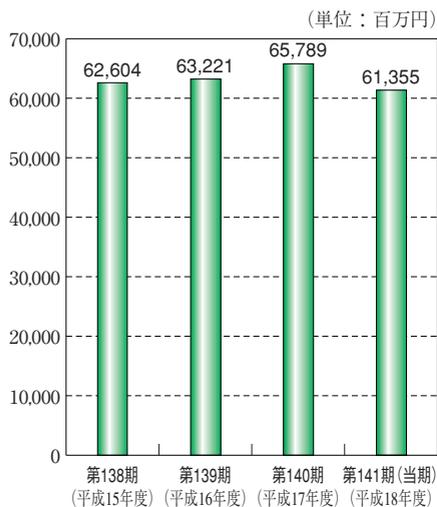
(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成18年2月28日残高	26,201,895	18,921,591	5,043,158	△865,439	49,301,206
連結会計年度中の変動額					
新株の発行	1,941,800	6,161,014			8,102,814
利益処分による利益配当			△346,111		△346,111
利益処分による役員賞与			△60,402		△60,402
連結子会社減少に伴う剰余金減少			△114,994		△114,994
持分法適用会社減少に伴う剰余金増加			99,652		99,652
当期純利益			1,118,797		1,118,797
自己株式の取得				△390,956	△390,956
自己株式の処分		△9,600		125,293	115,693
株式交換により連結子会社に割当交付した親会社株式				△204,000	△204,000
持分法適用会社の持分率変動による差額				△16,364	△16,364
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	1,941,800	6,151,413	696,941	△486,027	8,304,127
平成19年2月28日残高	28,143,695	25,073,005	5,740,100	△1,351,467	57,605,334

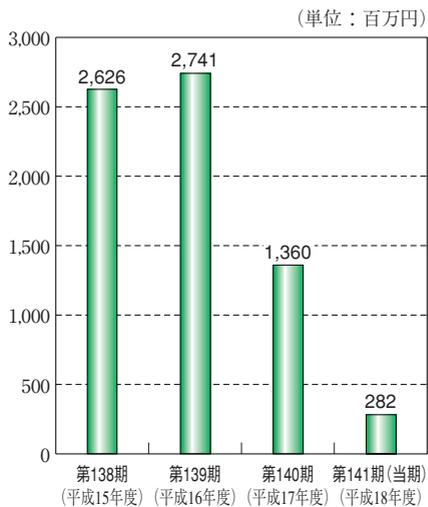
	評価・換算差額等		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計			
平成18年2月28日残高	6,004,312	6,004,312	25,690	3,193,480	58,524,688
連結会計年度中の変動額					
新株の発行					8,102,814
利益処分による利益配当					△346,111
利益処分による役員賞与					△60,402
連結子会社減少に伴う剰余金減少					△114,994
持分法適用会社減少に伴う剰余金増加					99,652
当期純利益					1,118,797
自己株式の取得					△390,956
自己株式の処分					115,693
株式交換により連結子会社に割当交付した親会社株式					△204,000
持分法適用会社の持分率変動による差額					△16,364
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	106,605	106,605	△1,481	△1,671,484	△1,566,361
連結会計年度中の変動額合計	106,605	106,605	△1,481	△1,671,484	6,737,766
平成19年2月28日残高	6,110,917	6,110,917	24,208	1,521,995	65,262,455

[業績の推移・個別]

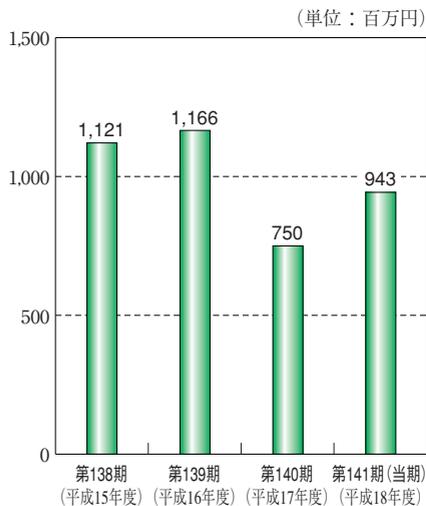
売上高



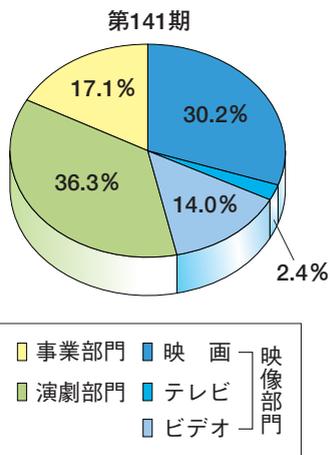
経常利益



当期純利益



部門別売上



貸借対照表

(平成19年2月28日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資産の部		負債の部	
流動資産	27,250,238	流動負債	22,003,219
現金及び預金	7,071,232	買掛金	3,879,945
売掛金	6,804,794	短期借入金	8,312,500
商売掛金	1,575,902	社債(1年以内償還)	1,100,000
製原材	109,348	未払金	5,794,531
仕掛品	1,424	未払費用	441,165
貯蔵品	1,368,615	未払事業所税	48,738
前渡金	22,105	未払法人税等	39,354
前払費用	2,039,783	未払消費税等	128,077
繰延税金資産	167,548	前受金	1,037,019
短期貸付金	1,146,390	預り金	880,839
立替金	5,058,450	賞与引当金	321,728
その他の流動資産	554,473	その他の流動負債	19,318
貸倒引当金	1,373,848	固定負債	34,781,356
	△43,678	社債	2,100,000
固定資産	92,452,814	長期借入金	22,215,000
有形固定資産	42,790,463	繰延税金負債	3,469,997
建物	18,612,230	退職給付引当金	1,396,653
構築物	6,274,605	役員退職慰労引当金	621,287
機械及び装置	100,390	受入保証金	4,978,417
車両運搬具	606,660	負債合計	56,784,575
工具・器具・備品	9,805	純資産の部	
土地	1,370,734	株主資本	56,832,770
建設仮勘定	15,180,880	資本金	28,143,695
	635,154	資本剰余金	25,073,005
無形固定資産	1,478,354	資本準備金	23,068,561
借地権	974,866	その他資本剰余金	2,004,444
商標権	4,454	利益剰余金	4,300,011
ソフトウェア	499,033	その他利益剰余金	4,300,011
投資その他の資産	48,183,996	固定資産圧縮積立金	889,045
投資有価証券	19,441,366	固定資産圧縮特別勘定積立金	1,686,875
関係会社株	12,532,424	繰越利益剰余金	1,724,090
関係会社出資金	17,220	自己株式	△683,941
長期貸付金	9,296,068	評価・換算差額等	6,087,025
差入保証金	3,148,793	その他有価証券評価差額金	6,087,025
その他の投資	4,642,295	新株予約権	24,208
貸倒引当金	987,815	純資産合計	62,944,004
	△1,881,986	負債・純資産合計	119,728,580
繰延資産	25,527		
株式交付費	25,527		
資産合計	119,728,580		

損 益 計 算 書

(自 平成18年 3 月 1 日
至 平成19年 2 月 28 日)

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	61,355,646
売 上 原 価	35,060,368
売 上 総 利 益	26,295,277
販売費及び一般管理費	25,546,924
営 業 利 益	748,352
営 業 外 収 益	865,494
受取利息及び配当金 そ の 他	632,965
営 業 外 費 用	1,331,530
支 払 利 息	523,404
貸倒引当金繰入額 そ の 他	91,006
経 常 利 益	282,315
特 別 利 益	3,989,161
投資有価証券売却益	270
固定資産売却益	3,557,472
関係会社株式売却益	374,975
関係会社整理損戻入益	37,742
ゴルフ会員権売却益	18,700
特 別 損 失	2,543,630
固定資産除却損	12,526
固定資産解体費用	485,967
投資有価証券評価損	635,383
映像製作企画倒れ償却損	220,804
関係会社整理損	406,087
関係会社株式消却損	10,001
関係会社株式評価損	94,136
ゴルフ会員権評価損	27,400
減 損 損 失	651,324
税引前当期純利益	1,727,846
法人税、住民税及び事業税	24,014
法 人 税 等 調 整 額	760,151
当 期 純 利 益	943,680

株主資本等変動計算書

(自 平成18年3月1日)
(至 平成19年2月28日)

(単位：千円)

	株 主 資 本									
	資本金	資 本 剰 余 金			利 益 剰 余 金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
					固定資産圧縮積立金	固定資産圧縮特別勘定積立金	繰越利益剰余金			
平成18年2月28日残高	26,201,895	16,907,547	2,014,044	18,921,591	973,015	—	2,746,427	3,719,443	△418,279	48,424,651
事業年度中の変動額										
新株の発行	1,941,800	6,161,014		6,161,014						8,102,814
利益処分による固定資産圧縮積立金取崩					△41,984		41,984	—		—
固定資産圧縮積立金取崩					△41,984		41,984	—		—
固定資産圧縮特別勘定積立金						1,686,875	△1,686,875	—		—
利益処分による利益配当							△346,111	△346,111		△346,111
利益処分による役員賞与							△17,000	△17,000		△17,000
当期純利益							943,680	943,680		943,680
自己株式の取得									△390,956	△390,956
自己株式の処分			△9,600	△9,600					125,293	115,693
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)										
事業年度中の変動額合計	1,941,800	6,161,014	△9,600	6,151,413	△83,969	1,686,875	△1,022,336	580,568	△265,662	8,408,119
平成19年2月28日残高	28,143,695	23,068,561	2,004,444	25,073,005	889,045	1,686,875	1,724,090	4,300,011	△683,941	56,832,770

	評価・換算差額等			純資産合計
	其他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	新株予約権	
平成18年2月28日残高	5,989,291	5,989,291	25,690	54,439,633
事業年度中の変動額				
新株の発行				8,102,814
利益処分による固定資産圧縮積立金取崩				—
固定資産圧縮積立金取崩				—
固定資産圧縮特別勘定積立金				—
利益処分による利益配当				△346,111
利益処分による役員賞与				△17,000
当期純利益				943,680
自己株式の取得				△390,956
自己株式の処分				115,693
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)	97,733	97,733	△1,481	96,251
事業年度中の変動額合計	97,733	97,733	△1,481	8,504,371
平成19年2月28日残高	6,087,025	6,087,025	24,208	62,944,004

当社の情報 (平成19年2月28日現在)

会社の概要

商号 松竹株式会社
 設立 大正9年11月
 資本金 28,143,695,022円
 発行済株式の総数 125,695,578株
 株主数 19,153名
 従業員数 617名

本社、支社および営業所
 本社

東京都中央区築地四丁目1番1号
 電話 03-5550-1533 (総務課)

関東支社 (東京)

関西支社 (大阪)

九州営業所 (福岡)

当社ホームページ

<http://www.shochiku.co.jp>

役員

代表取締役社長	大迫野	谷本	信淳助	義一
代表取締役社長	安孫子	本島	雅	嗣正
専務取締役	山中	水谷		厚仁
専務取締役	清油	白松	信輝一	昇彦
専務取締役	白松	関		起郎
取締役相談役	岡	田村	敏直	明治
取締役	河	木川	俊勝	彦弘
取締役	柏	中		
取締役				
常勤監査役				
監査役				
監査役				
監査役				

株式の状況

発行可能株式総数 300,000,000株

発行済株式の総数 125,695,578株 (自己株式885,860株を含みます。)

株主数 19,153名 (前期末比787名増加)

大株主の状況 (上位10名)

株主名	持株数	出資比率
モルガンスタンレーアンドカンパニーインターナショナルリミテッド	5,366,000株	4.27%
株式会社歌舞伎座	4,802,000	3.82
株式会社みずほコーポレート銀行	4,500,000	3.58
株式会社三菱東京UFJ銀行	4,344,000	3.46
セコム株式会社	3,700,000	2.94
三井物産株式会社	3,700,000	2.94
株式会社大林組	3,600,000	2.86
大成建設株式会社	3,444,000	2.74
西松建設株式会社	3,288,000	2.62
株式会社東京放送	2,542,000	2.02

グループ会社の状況

【映像関連事業】

- ・(株)松竹マルチプレックスシアターズ
複合映画館（シネマコンプレックス）の開発・運営
- ・(株)衛星劇場
CS・CATV放送、ソフト製作・編集【衛星劇場・ホームドラマチャンネル】
- ・(株)トライメディア
劇場上映のCMの製作および送出、その他のマルチメディア全般の企画開発等
- ・松竹京都映画(株)
劇場用映画・テレビ映画の製作、短編・CM映画の製作並びに請負【松竹京都映画撮影所】
- ・(株)伝統文化放送
CS・CATV放送局、ソフト製作・編集【歌舞伎チャンネル】
- ・中映(株)
浅草中映劇場他4スクリーンの映画館運営
- ・(株)松竹ニューセレクト
複合映画館「MOVIX本牧」（8スクリーン）の映画館運営
- ・(株)ムービーチャンネル
CSのPPV放送局、ソフト製作・編集【POWERPLAT'S】
- ・(株)ドーガ堂
デジタルコンテンツの企画・製作
- ・(株)サテライト・マスター
CS放送局の番組送出
- ・札幌シネマフロンティア(株)
複合映画館「札幌シネマフロンティア」（12スクリーン）の運営
- ・(株)神奈川メディアセンター
CATV番組制作、人材育成
- ・アナザヘヴン(株)
映画の製作および配給、並びにその請負・販売
- ・日本映像振興(株)
映像関連イベントの企画・運営

【演劇事業】

- ・松竹芸能(株)
タレント・俳優の養成並びにマネージメント、演劇・テレビドラマ・イベントの企画・製作
- ・(株)松竹エンタテインメント
俳優・芸能タレント・音楽家・スポーツ選手・アーティストの育成並びにマネージメント

【不動産・その他の事業】

- ・(株)歌舞伎座
歌舞伎座その他事務所・店舗の賃貸
- ・新橋演舞場(株)
新橋演舞場その他の事務所・店舗の賃貸
- ・(株)サンシャイン劇場
サンシャイン劇場の賃貸、演劇・映画の興行他
- ・匿名組合築地ビルキャピタル
ADK松竹スクエアの賃貸借及び管理
- ・松竹衣裳(株)
舞台衣裳等の製作・販売・賃貸
- ・(株)松竹サービスネットワーク
映画関連グッズの販売、各種イベントの企画製作および運営、不動産管理・清掃、フラワー事業、損害保険の代理
- ・松竹関西サービス(株)
不動産管理・清掃
- ・松竹音楽出版(株)
映画音楽の制作並びに音楽著作権の管理
- ・歌舞伎座舞台(株)
演劇舞台の大道具製作・販売
- ・(株)関西美術
演劇舞台の小道具製作・賃貸
- ・(株)大和衣裳
舞台衣裳等の製作・販売・賃貸
- ・日本演劇衣裳(株)
舞台衣裳等の製作・販売・賃貸
- ・(株)ショウビズスタジオ
舞台、映画、テレビ、ラジオの番組企画製作並びに音響効果の企画製作再生
- ・(株)イヤホンガイド
演劇劇場内イヤホンガイドサービス

株 主 メ モ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月下旬
株主確定基準日	定時株主総会 2月末日 期末配当 2月末日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同 連 絡 先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
単 元 株 式 数	1,000株
公 告 掲 載 新 聞	東京都において発行する日本経済新聞
<p>◎株式に関するお手続きのご請求について 次のフリーダイヤルもしくはインターネットでも24時間受付けておりますので、ご利用下さい。 0120-244-479 (三菱UFJ信託銀行 本店証券代行部) 0120-684-479 (三菱UFJ信託銀行 大阪証券代行部) インターネットホームページ http://www.tr.mufg.jp/daikou/ なお、証券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会下さい。</p>	

株 主 優 待 基 準

【株主優待権利確定日および優待期間】

権利確定日	映画優待期間	演劇優待期間
毎年2月末日	毎年6月1日～同年11月30日	毎年6月分～同年11月分
毎年8月末日	毎年12月1日～翌年5月31日	毎年12月分～翌年5月分

※6ヶ月ごとに株主様へ株主優待内容通知をご通知いたします。

【映画優待 ポイント付与基準】 ※10ポイントにつき1名様のご入場可能

保有株式数	6ヶ月優待ポイント数 (1ヶ月使用可能ポイント数)
1,000株以上	80ポイント (40ポイント)
2,000株以上	160ポイント (60ポイント)
3,000株以上	200ポイント (80ポイント)
5,000株以上	280ポイント (100ポイント)
8,000株以上	400ポイント (120ポイント)
10,000株以上	480ポイント (140ポイント)

【演劇優待 枚数基準】

保有株式数	6ヶ月優待枚数
3,000株以上	2枚
5,000株以上	4枚
8,000株以上	6枚
10,000株以上	8枚
15,000株以上	12枚
20,000株以上	16枚

※「6ヶ月優待ポイント数」とは、優待権利期間の6ヶ月の間に使用できるポイント総数です。そのポイント総数の内、1ヶ月に使用できる上限のポイント数を示しているのが、「1ヶ月使用可能ポイント数」です。